

2月チャプレン便り

「待つ」

母親が、こどもにかける言葉で、一番多いのが、「はやく！はやく！」です。一般的に、一日40回ぐらい言っているそうです。どこの家庭でも、どこのおうちでも同じです。ご安心ください(笑)。

ただ、この「はやく！はやく！」という言葉は、こどもの成長には、あまりよろしくないようです。

子どもは、あとほんの少し待ってあげられたら、自分でできることも多いようです。また、親が待てるようになると、子どもの「自分でできた！」が増えます。そうすると、それは子どもの自信につながります。そうなると、「もっとやりたい！」「自分でやろう！」というふうになります。

また子どもは、待ってくれた人に対して、「優しさや愛情」を感じ、子ども自身も「待てる子」になります。忙しいときに待つのは大変ですが、待ってあげることで、子どもはぐんと成長します。

おうちのかたが先回りして手伝うことは、必ずしも悪いことではありません。ポイントは、「とっかかり」だけ手伝うことです。例えば朝の着替え。パジャマから洋服に着替えるときに、5つボタンがあれば、年齢にもよりますが、最初のボタン2つを外してあげる。「最初だけね」と言ってそこだけ手伝えれば、あとは子どもは不思議なもので、最後までやれます。とっかかりだけ手伝ってあげて、仕上げは子どもにおまかせです。たとえ半分以上おうちのかたがしたことでも、最後に自分がすることで、「自分でできた！」という気持ちになるので、子どもの自信が育ちます。自信が育っていくと習慣になり、やがて本当に自分でできるようになります。

子どもをしかるときに、ついつい感情的になってしまことがあります。その時は、ひと呼吸して、子どもを抱っこして叱るようにしてみてください。抱っこされていることで子どもは、どこかで愛されていると感じ、素直に相手の話を聞くことができます。また自分自身も、子どもを抱っこすることで、感情的にならずに叱ることができるので、オススメです。

聖書の言葉

「愛は寛容であり、…いらだたない、…
すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。」

コリント人への手紙13章4節～7節

石川三育保育園チャプレン 北 瞳 夫